

## 4. 子育ての状況と育児意識

### 4-1. 育児に関する意見

#### 4-1-1. 『子育ては辛いことより楽しいことの方が多いはずだ』に対する意見(Q9-⑤)

【男性】

子育ての楽しさに関しては、実際に子どものいる【若年一人っ子家族】では大半の人が認めており、「そう思う」という積極的肯定者も半数近く(48.0%)に達する。

無子家族は肯定率、積極的肯定率とも【若年一人っ子家族】より低い。

【女性】

女性においても男性と同様の傾向がみられる。

#### 4-1-2. 『子どもを持ったら、子育てのために自分の楽しみは多少我慢すべきだ』に対する意見(Q9-⑥)

【男性】

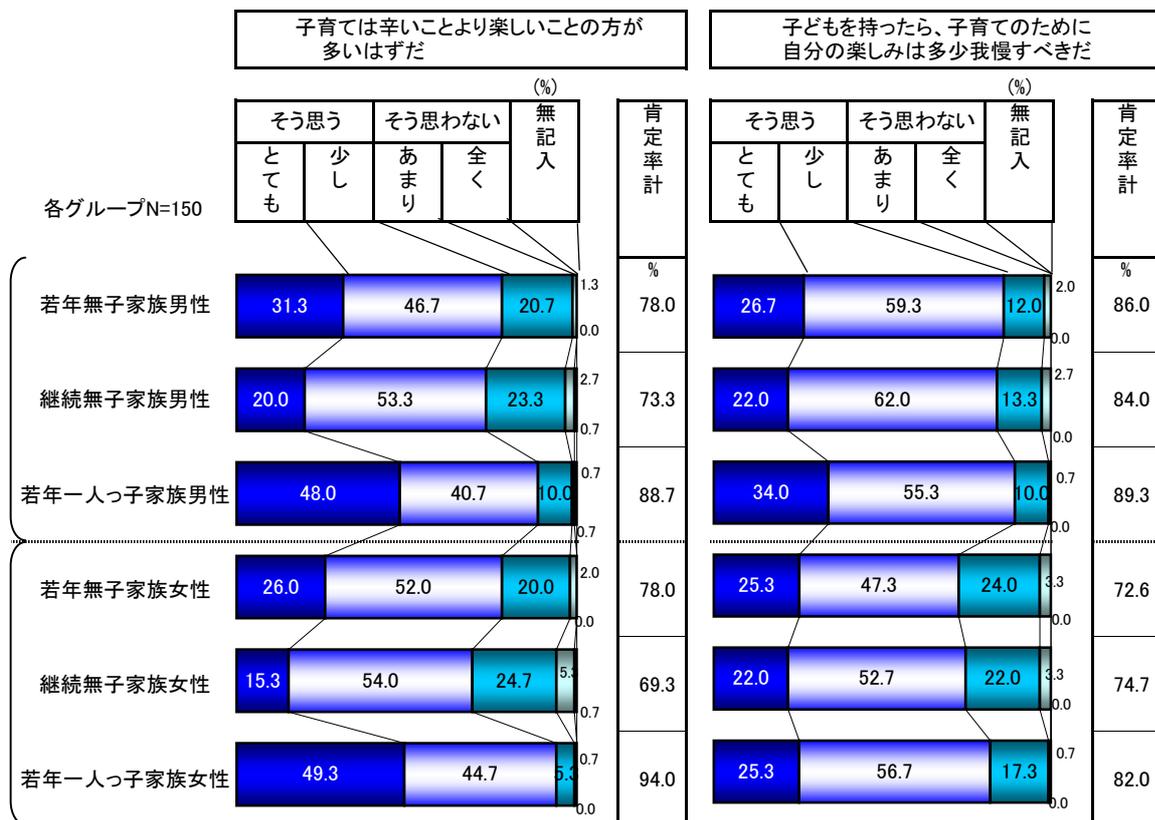
どのグループでも肯定者が大半を占め、否定する人は2割に満たない。

【女性】

肯定者は7～8割であり、男性に比べるとやや少ない。

特に無子家族グループでは否定する人が3割弱みられる。

図表4-1-1. 育児に関する意見(単数回答)(基数:全体)



### 4-1-3. 『母親の仕事の有無にかかわらず、誰でも必要があれば

#### 保育所やベビーシッターなどのサービスを利用すべきだ』に対する意見(Q9-⑩)

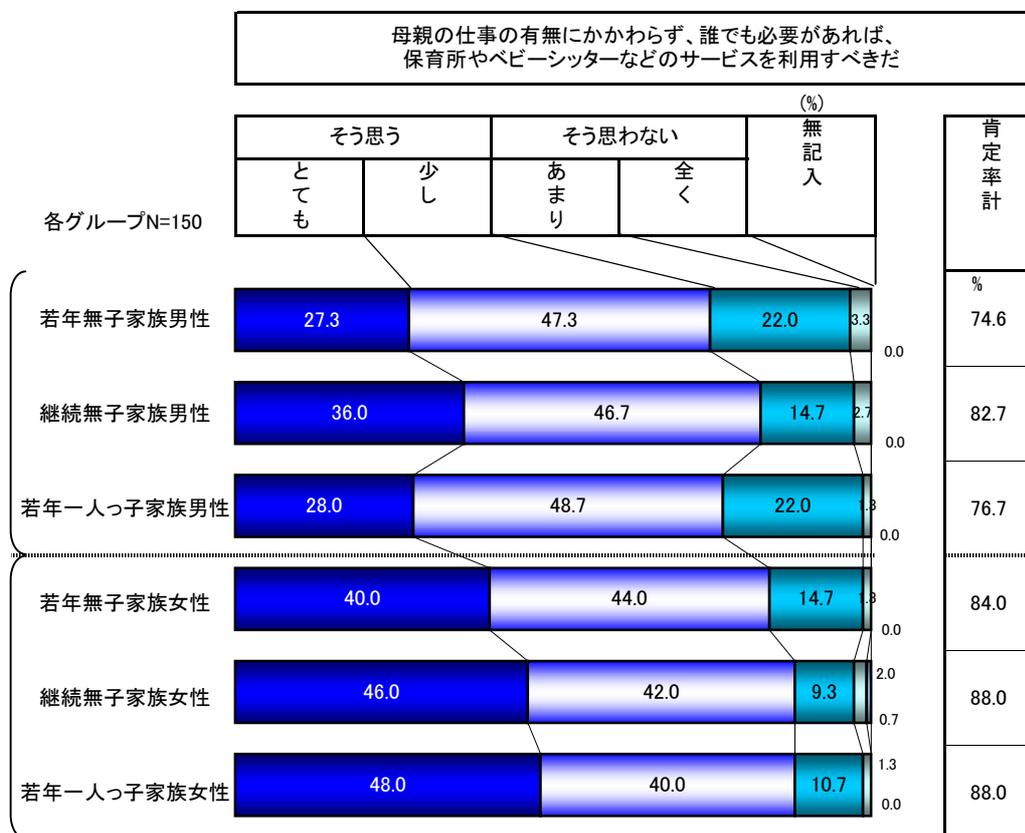
##### 【男性】

どのグループも7～8割が肯定しているが、積極的に肯定する人は3割前後に留まる。特に、若年グループには積極的な肯定者が少なく、3割に満たない。

##### 【女性】

どのグループも大半が肯定しており、しかも積極的肯定者が4～5割を占めている。積極的肯定者が最も少ないのは、【若年無子家族】で40.0%にとどまっている。

図表4-1-2. 育児に関する意見(単数回答)(基数:全体)



## 4-2. 子どもに受けさせたい教育レベル(Q16)

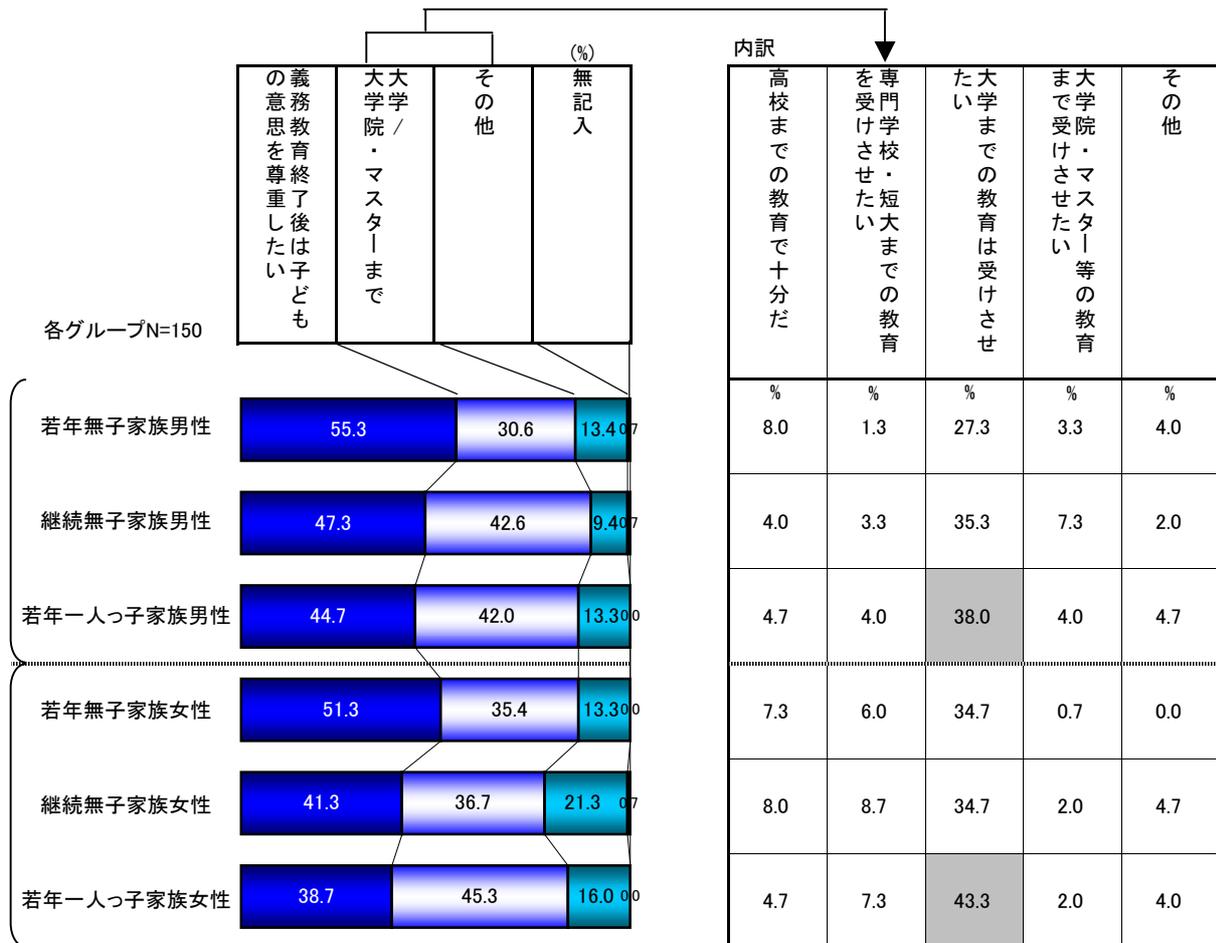
### 【男性】

「義務教育終了後は子どもの意思を尊重したい」と答えた人の割合は【若年無子家族】が55.3%で最も高く、以下【継続無子家族】が47.3%、【若年一人っ子家族】が44.7%の順になっている。逆に「大学までの教育は受けさせたい」と答える人の割合は【若年一人っ子家族】が最も高く、38.0%となっている。

### 【女性】

男性同様、「義務教育終了後は子どもの意思を尊重したい」は【若年無子家族】が最も高く、51.3%と半数を超えている。一方、【若年一人っ子家族】では「大学までの教育は受けさせたい」との意向を持つ人が43.3%と4割を超え、「子どもの意思を尊重したい」(38.7%)を上回っている。

図表4-2. 子どもに受けさせたい教育レベル(単数回答)(基数:全体)



### 4-3. 親としての責任を果たし終える時期(Q17)

#### 【男性】

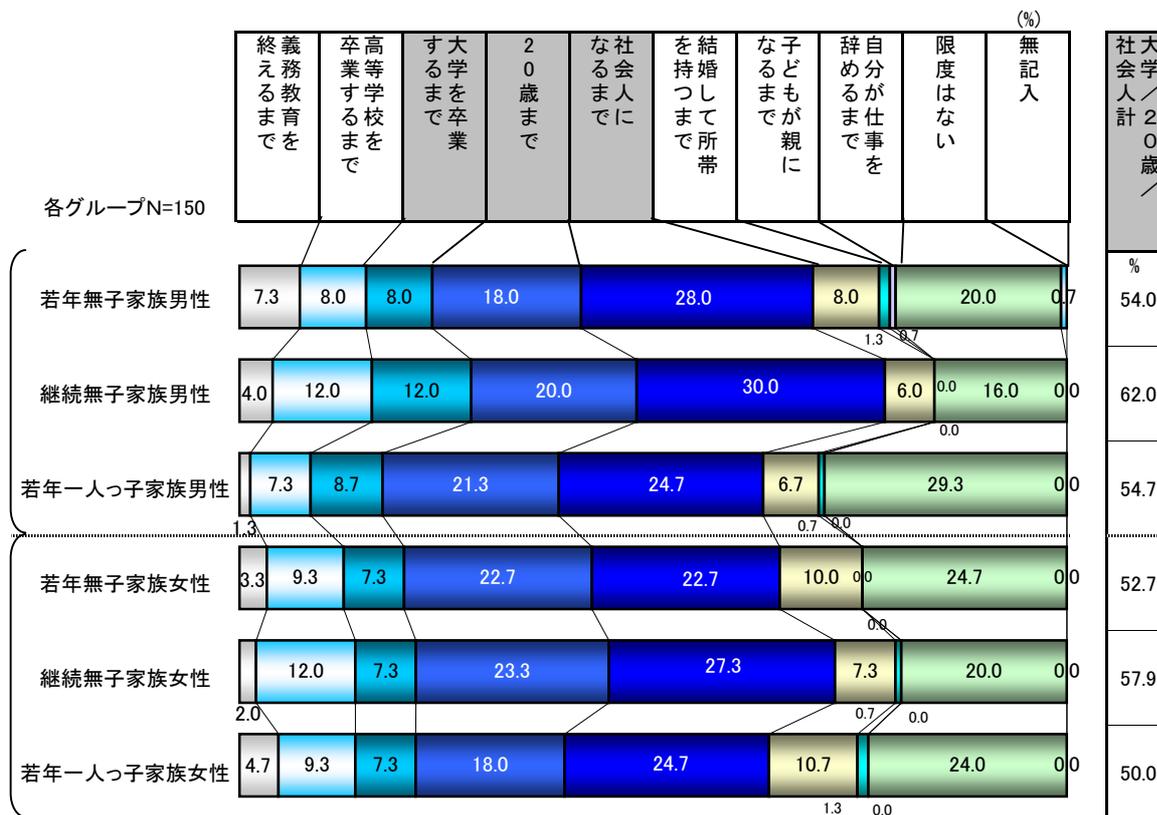
無子家族グループでは「社会人になるまで」という回答が3割程度を占め、最も多い。

一方、【若年一人っ子家族】では「限度はない」(29.3%)との回答が最も多く、「社会人になるまで」(24.7%)を上回っている。

#### 【女性】

女性の場合は、どのグループも「20歳まで」「社会人になるまで」「限度はない」のいずれかを答える人が多い。【継続無子家族】では「社会人になるまで」(27.3%)という回答が他グループを上回っている。

図表4-3. 親としての責任を果たし終える時期(単数回答)(基数:全体)



#### 4-4. 子どもに身につけて欲しいこと(Q19)

##### 【男性】

どのグループも「他人のことを思いやる心」、次いで「礼儀正しさ、公共心」を身につけて欲しいと考えている。これらに加え、【若年無子家族】では「生きる力」、【継続無子家族】、【若年一人っ子家族】では「責任感」を挙げる人が多い。

「他人を思いやる心」「礼儀正しさ、公共心」は特に【若年一人っ子家族】の割合が高い。

##### 【女性】

「他人のことを思いやる心」について「礼儀正しさ、公共心」が多いのは男性と同様であるが、これに次いでどのグループでも「生きる力」を挙げる人が多くみられる。

図表4-4. 子どもに身につけてほしいこと(回答3つまで)(基数:全体)  
(%)

	男性			女性		
	若年無子家族	継続無子家族	若年一人っ子家族	若年無子家族	継続無子家族	若年一人っ子家族
各グループN=150						
他人のことを思いやる心	58.7	51.3	64.0	78.0	68.0	70.0
礼儀正しさ、人に迷惑をかけない公共心	42.0	44.7	54.7	52.0	50.0	54.0
知識・教養	23.3	25.3	23.3	21.3	22.0	20.7
生きる力	24.0	16.0	18.7	24.7	30.7	29.3
責任感	20.0	28.7	24.0	18.7	20.7	19.3
自分の意見を言える表現力	14.7	16.7	20.0	20.7	8.7	24.7
協調性	18.0	12.7	18.7	14.0	18.7	18.0
創造性	18.7	14.7	16.0	9.3	7.3	13.3
精神力	12.0	12.0	14.0	10.7	20.7	14.7
公正さ・正義感	16.0	18.0	10.7	8.7	9.3	6.7
実行力	12.7	9.3	4.7	10.0	4.7	3.3
ユーモアのセンス	10.0	7.3	6.0	11.3	5.3	4.7
国際性	4.0	6.7	6.7	6.0	4.0	4.7
独立心	3.3	10.0	5.3	2.0	4.7	2.0
目上の人を敬う精神	4.7	4.7	6.0	6.0	3.3	2.0
先祖を敬う精神	3.3	4.7	3.3	3.3	2.7	2.0
愛国心	1.3	1.3	0.7	0.7	0.0	0.0
その他	1.3	1.3	0.7	0.0	2.0	0.7
特にない	0.7	2.0	0.0	0.0	1.3	0.7

#### 4-5. 子どもに関する不安(Q20)

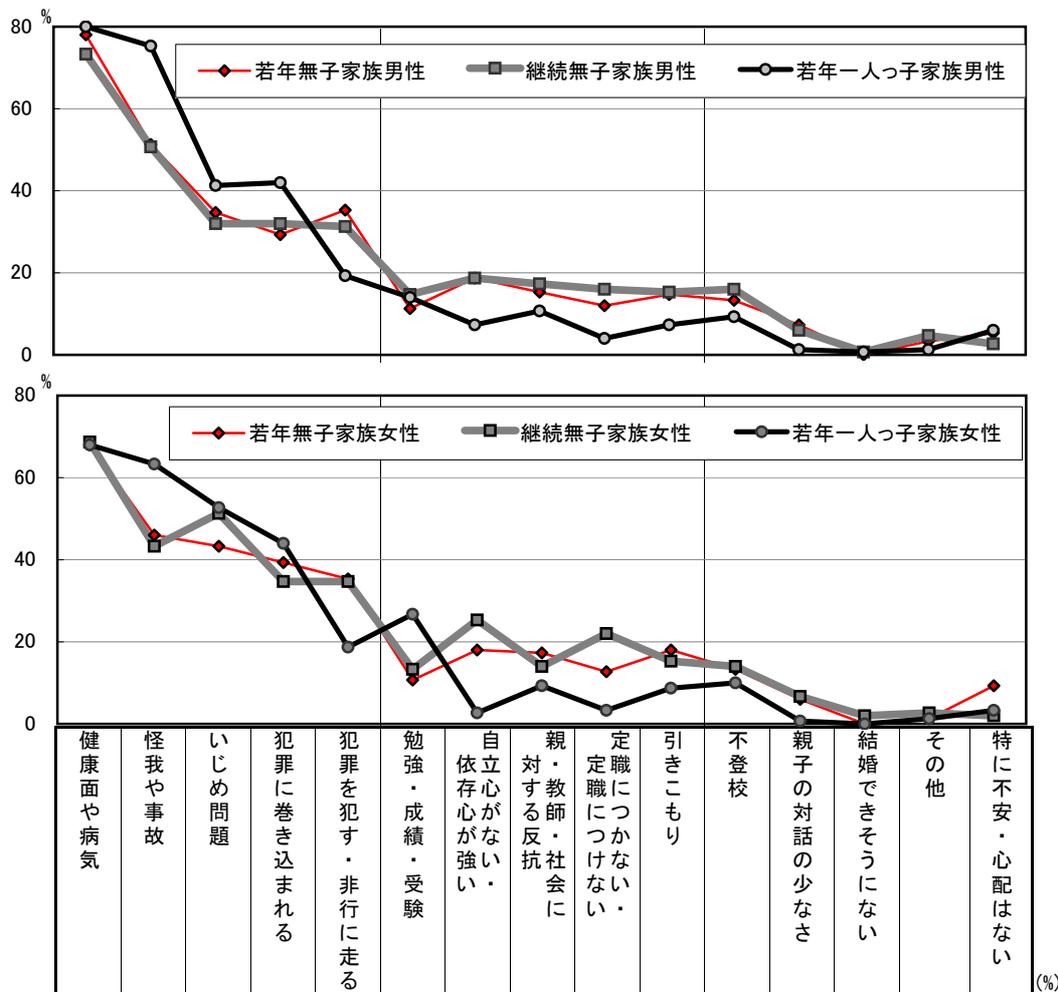
##### 【男性】

子どもに関する最大の不安は「健康面や病気」「怪我や事故」である。これらの不安は子どものいる【若年一人っ子家族】で特に強い。この他、【若年一人っ子家族】では「いじめ問題」や「犯罪に巻き込まれる」ことも大きな不安になっている。無子家族グループはこれらの項目の割合は【若年一人っ子家族】に比べると低い。一方で、「犯罪を犯す・非行に走る」を挙げる人がそれぞれ3割以上みられ、この点については【若年一人っ子家族】(19.3%)との乖離が大きい。

##### 【女性】

男性とほぼ同様の傾向がみられる。「犯罪を犯す・非行に走る」は無子家族グループで、「勉強・成績・受験」は【若年一人っ子家族】で割合が高く、子どもの有無による意識の差がみられる。

図表4-5. 子どもに関する不安(複数回答)(基数:全体)



各グループN=150

	健康面や病気	怪我や事故	いじめ問題	犯罪に巻き込まれる	犯罪を犯す・非行に走る	勉強・成績・受験	自立心が強い・依存心がない	親・教師・社会に対する反抗	定職につかない・定職につかない	引きこもり	不登校	親子の対話の少なさ	結婚できそうにない	その他	特に不安・心配はない
若年無子家族男性	78.0	51.3	34.7	29.3	35.3	11.3	18.7	15.3	12.0	14.7	13.3	7.3	0.0	3.3	5.3
継続無子家族男性	73.3	50.7	32.0	32.0	31.3	14.7	18.7	17.3	16.0	15.3	16.0	6.0	0.7	4.7	2.7
若年一人っ子家族男性	80.0	75.3	41.3	42.0	19.3	14.0	7.3	10.7	4.0	7.3	9.3	1.3	0.7	1.3	6.0
若年無子家族女性	68.0	46.0	43.3	39.3	35.3	10.7	18.0	17.3	12.7	18.0	13.3	6.0	0.0	1.3	9.3
継続無子家族女性	68.7	43.3	51.3	34.7	34.7	13.3	25.3	14.0	22.0	15.3	14.0	6.7	2.0	2.7	2.0
若年一人っ子家族女性	68.0	63.3	52.7	44.0	18.7	26.7	2.7	9.3	3.3	8.7	10.0	0.7	0.0	1.3	3.3

## 4-6. 理想の子ども数と今後持つつもりの子どもの数(Q21)

### 4-6-1. 理想の子ども数(Q21-①)

#### 【男性】

理想の子ども数を見ると、どのグループでも「2人」と答えた人が最も多く、6割程度を占めており、大きな差はない。ただし【継続無子家族】では「もうけたくない」という人が1割みられる。

#### 【女性】

どのグループでも「2人」と答えた人が5割程度で最も多い。若年家族では「3人」の人も3割程度みられる。

【継続無子家族】では「もうけたくない」という人が2割弱(18.7%)みられる。

### 4-6-2. 今後、子どもをもうける意思(Q21-②)

#### 【男性】

今後、子どもをもうけたい意向のある人は、【継続無子家族】では62.7%で、他グループより少ない。

#### 【女性】

【継続無子家族】で、今後子どもをもうけたい意向のある人は32.7%にとどまっている。因みに、理想より、希望する子ども数が少ない人の比率は男女とも【継続無子家族】が最も多く、男性66.7%、女性88.0%になっている。

図表：4-6：理想の子ども数、今後子どもをもうける意思(各単数回答)(基数：全体)

各グループ N=150	理想の子ども数					今後 子どもを もうける 意向率	今後もうける 予定の子ども数		平均子ども数			理想より 少ない 子どもの 比率が	
	1 人	2 人	3 人	4 人 以上	も 子 ど も う け た く な い		1 人	2 人 以上	理想 の 人 数	持 つ つ も り の 人 数	持 つ つ も り の 差		理想と
若年無子 家族男性	6.0	59.3	28.7	3.3	2.7	90.0	14.7	75.3	2.25	1.79	0.46	36.0	
継続無子 家族男性	4.7	60.7	24.7	0.0	10.0	62.7	27.3	35.4	2.00	1.03	0.97	66.7	
若年一人っ 子家族男性	4.0	61.3	32.0	2.7	0.0	76.7	62.7	14.1	2.34	1.93	0.41	38.0	
若年無子 家族女性	6.0	54.7	30.7	4.0	4.7	92.7	23.3	69.3	2.23	1.76	0.47	40.7	
継続無子 家族女性	6.0	51.3	21.3	2.7	18.7	32.7	16.7	16.0	1.83	0.49	1.34	88.0	
若年一人っ 子女性家族	7.3	51.3	39.3	2.0	0.0	58.0	50.7	7.4	2.36	1.66	0.70	58.0	

#### 4-7. 今後持つ予定の子ども数が理想より少ない理由(Q22-SQ)

男女とも若年グループでは「経済的負担が大きいから」が最大の理由であり、6～7割を占めている。一方、【継続無子家族】では「子どもができないから」が5割を超え最も多く、「高年齢出産になるから」がこれに続いており、「経済的負担」を挙げる人は少ない。

割合はさほど高くないが、【継続無子家族】では「将来が子どもにとってよい環境とは思えない」が他グループに比べ多い。また【若年無子家族】と【継続無子家族】の女性では、「子どもを育てる自信がないから」という人も2割弱ほどみられる。

図表4-7-1: 今後持つ予定の子ども数が理想より少ない理由・ベスト5(複数回答)  
(基数: 理想より持つ予定数が少ない人および子どもは持たない人)

		若年無子家族 (男性 n=54 女性 n=61)	%	継続無子家族 (男性 n=100 女性 n=132)	%	若年一人っ子家族 (男性 n=57 女性 n=87)	%
男性	1位	経済的負担が大きいから	63.0	子どもができないから	52.0	経済的負担が大きいから	73.7
	2位	将来が子どもにとってよい環境とは思えない	13.0	高年齢出産になるから	47.0	健康・体力に自信がないから	14.0
	3位	子どもができないから	11.1	経済的負担が大きいから	23.0	家が狭いから	14.0
	4位	心理的負担が大きいから	11.1	健康・体力に自信がないから	15.0	子どもができないから	12.3
	5位	自分の人生を生きるのに精一杯だから	11.1	将来が子どもにとってよい環境とは思えない	15.0	心理的負担が大きいから	12.3
女性	1位	経済的負担が大きいから	67.2	子どもができないから	53.8	経済的負担が大きいから	66.7
	2位	子どもができないから	18.0	高年齢出産になるから	46.2	健康・体力に自信がないから	26.4
	3位	子どもを育てる自信がないから	18.0	経済的負担が大きいから	22.7	配偶者の育児への協力が期待できないから	23.0
	4位	時間のゆとりがなくなるから	16.4	健康・体力に自信がないから	21.2	子どもができないから	17.2
	5位	健康・体力に自信がないから	14.8	将来が子どもにとってよい環境とは思えない	18.9	時間のゆとりがなくなるから	16.1

図表4-7-2. 今後持つ予定の子ども数が理想より少ない理由(複数回答)

(基数:理想より持つ予定数が少ない人および子どもは持たない) (%)

	男性			女性		
	若年 無子 家族	継続 無子 家族	若年 一人 っ 子 家族	若年 無子 家族	継続 無子 家族	若年 一人 っ 子 家族
	n=54	n=100	n=57	n=61	n=132	n=87
経済的負担が大きいから	63.0	23.0	73.7	67.2	22.7	66.7
高年齢出産になるから	9.3	47.0	5.3	13.1	46.2	12.6
健康・体力に自信がないから	5.6	15.0	14.0	14.8	21.2	26.4
子どもができないから	11.1	52.0	12.3	18.0	53.8	17.2
心理的負担が大きいから	11.1	9.0	12.3	14.8	13.6	14.9
時間のゆとりがなくなるから	5.6	9.0	10.5	16.4	8.3	16.1
将来が子どもにとってよい環境とは思えない	13.0	15.0	5.3	13.1	18.9	11.5
子どもを育てる自信がないから	9.3	7.0	1.8	18.0	17.4	2.3
自分の人生を生きるのに精一杯だから	11.1	5.0	3.5	11.5	13.6	3.4
家が狭いから	5.6	2.0	14.0	4.9	1.5	11.5
結婚する気がないから	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
末子が定年退職までに成人して欲しいから	7.4	6.0	5.3	3.3	2.3	4.6
配偶者の育児への協力が期待できないから	3.7	3.0	1.8	6.6	4.5	23.0
他にやりたいことがあるから	5.6	5.0	0.0	8.2	6.1	3.4
夫婦2人だけの生活を楽しみたいから	11.1	11.0	1.8	11.5	10.6	0.0
配偶者との性関係がなくなったから	3.7	5.0	3.5	3.3	4.5	8.0
もともと子どもが好きではないから	3.7	0.0	0.0	8.2	11.4	1.1
自分の仕事に差しつかえるから	3.7	2.0	1.8	4.9	3.0	3.4
近くに保育所や、預けられる親がないから	0.0	0.0	3.5	6.6	2.3	5.7
子どもを虐待してしまいそうだから	0.0	1.0	0.0	6.6	2.3	0.0
勤め先などが出産・育児に対して理解がない	3.7	2.0	1.8	3.3	0.8	2.3
その他	7.4	4.0	12.3	8.2	4.5	5.7
無記入	7.4	3.0	3.5	6.6	2.3	1.1

#### 4-8. 持ちたい子どもを育てるのに必要な最低限の年収(Q23)

最終的に持つつもりの子どもの人数を育てるのに必要な最低限の年収を聞いた。

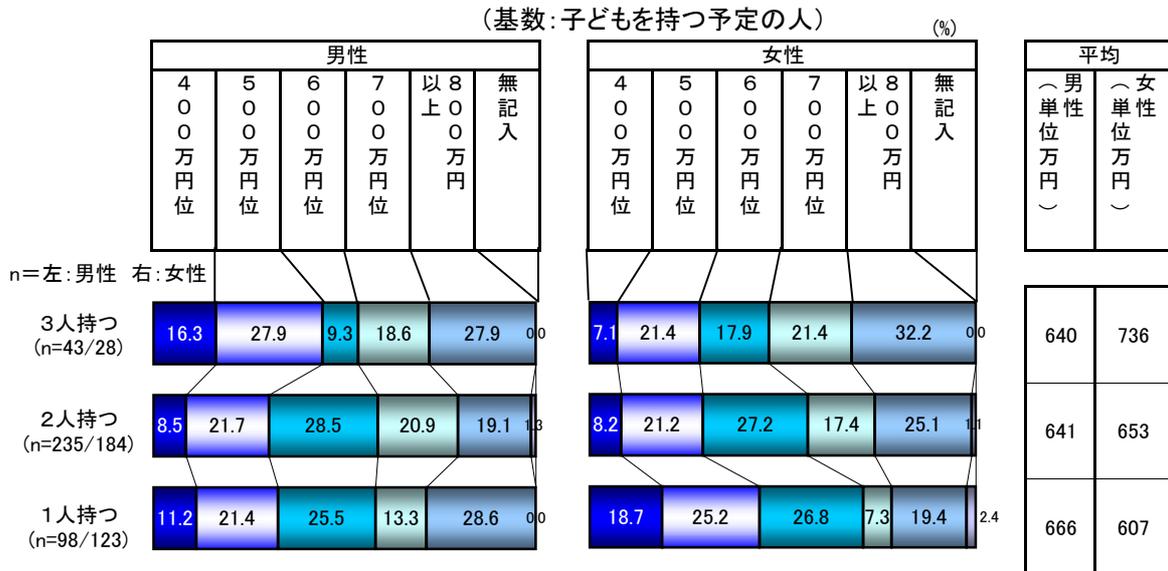
##### 【男性】

持つ子どもの人数別にみると、無子家族グループでは「1人」の方が「2人以上持つ」人より、最低限の年収の平均は高額になっている。一方、【若年一人っ子家族】では、子どもの人数が増えるほど、必要な平均年収は高額となっている。

##### 【女性】

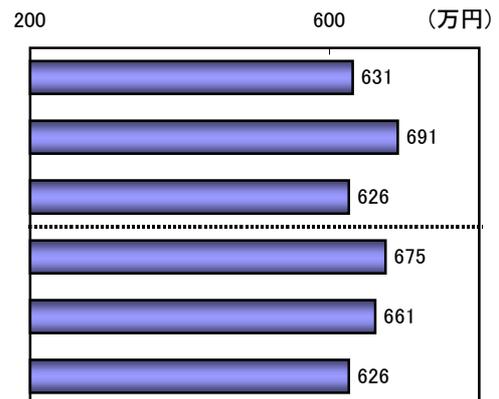
若年グループにおいては、子どもの人数が増えるほど、必要な年収の平均は高くなる傾向がある。逆に【継続無子家族】では子どもの人数が少ない方が、平均年収は高額となっている。

図表4-8. 持ちたい子ども数を育てるのに必要な最低限の年収(単数回答)



		(万円)				(人)			
		全体	3人持つ	2人持つ	1人持つ	全体	3人持つ	2人持つ	1人持つ
男性	若年無子	645	641	631	714	150	17	95	22
	継続無子家族	688	571	691	705	150	7	46	41
	若年一人っ子家族	626	663	626	591	150	19	94	35
女性	若年無子	668	782	675	594	150	17	85	35
	継続無子家族	688	500	661	720	150	1	23	25
	若年一人っ子家族	608	680	626	567	150	10	76	63

<「2人育てる」に必要な最低限の平均年収>



#### 4-9. 第一子誕生の理想の年齢と誕生年齢(Q24)

##### 【男性】

第一子誕生の理想の年齢は、【若年一人っ子家族】の64.0%が「20代」としているのに対し、【若年無子家族】、【継続無子家族】では「30代」が半数以上を占める。

平均年齢は、【若年一人っ子家族】が27.3歳であるのに対し、無子家族グループは30歳程度となっており、3歳程度の開きがみられる。

##### 【女性】

【若年一人っ子家族】では「24～25歳」と答える人が4割を超えているのに対し、【若年無子家族】では「30代」が4割近くみられる。

平均年齢は【若年一人っ子家族】が25.7歳であるのに対し、【継続無子家族】:27.4歳、【若年無子家族】が28.1歳となっている。

図表4-9. 第1子誕生の理想の年齢(単数回答)(基数:全体)

